

タカラスタANDARD株式会社

2026年3月期 第1四半期

決算説明資料

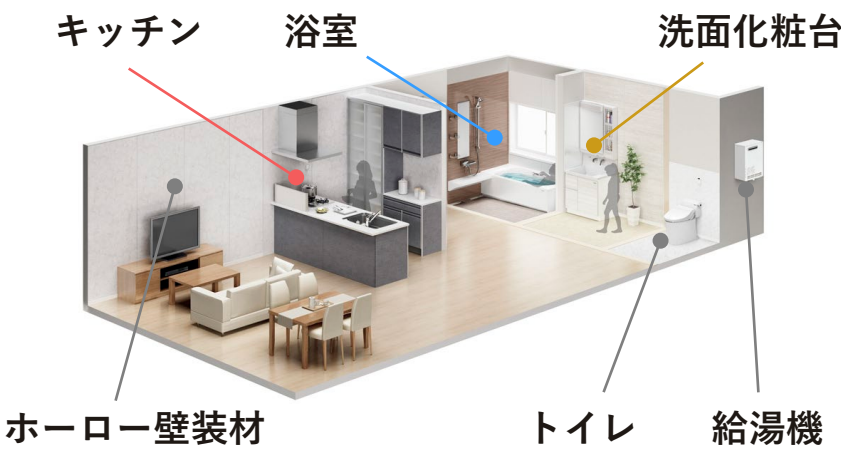
2025年8月5日

証券コード
7981

水まわりって、大切だから

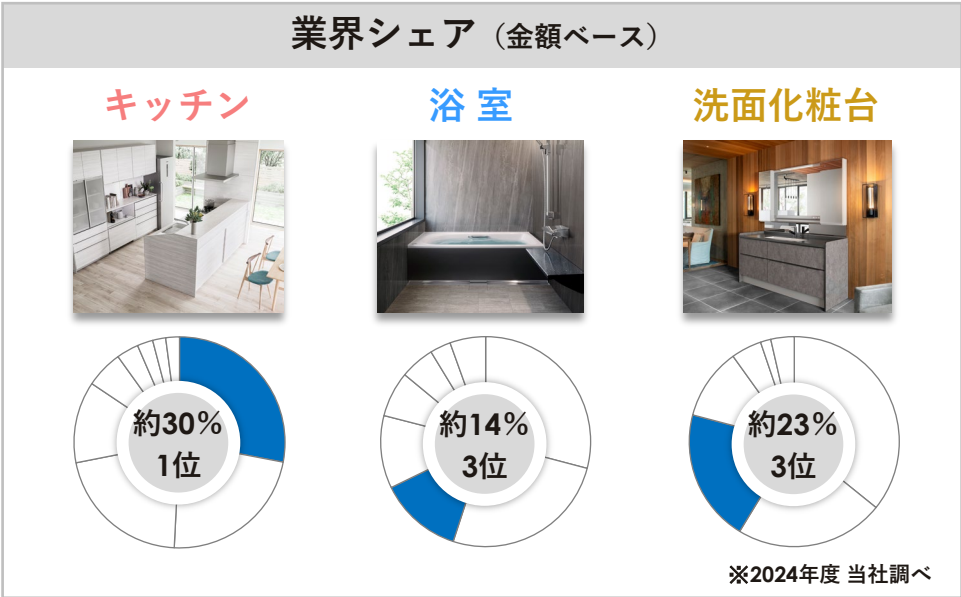
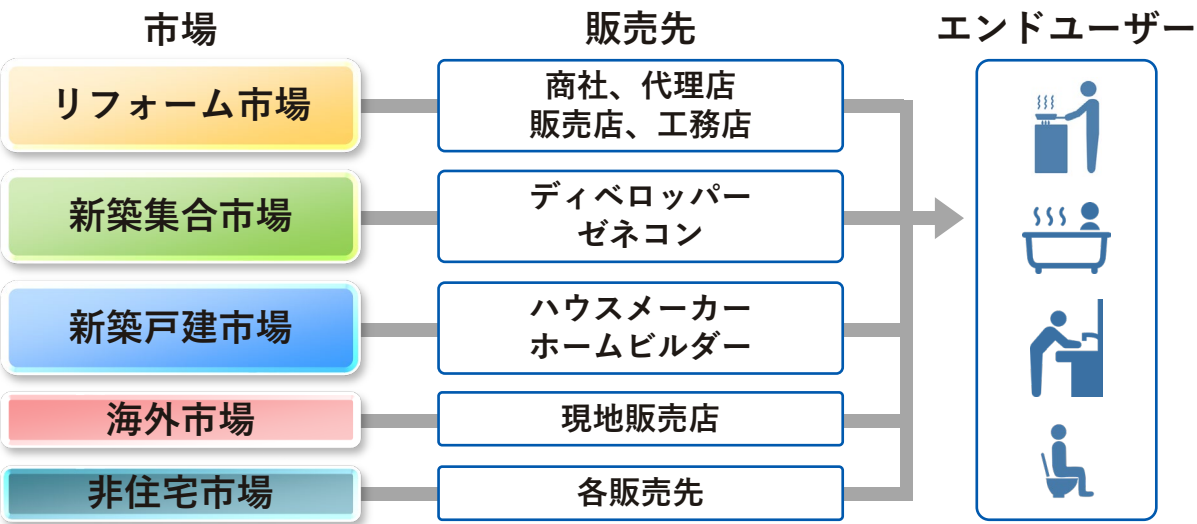
Takara standard

独自素材「高品位ホーロー」を使った製品などを展開する総合住宅設備機器メーカー



社名	タカラスタANDARD株式会社
本社	大阪市城東区鳴野東1-2-1
創業	1912年5月30日
代表取締役社長	小森 大
上場証券取引所	東証プライム (7981)
業績	売上高：2,433億円 営業利益：156億円 (25年3月期)
従業員数	6,560名 (25年3月末)

リフォーム市場、新築集合市場、新築戸建市場を中心に事業を展開



2026年3月期 1Q実績

売上高は**過去最高**、各利益は前期比**35%超の伸び**

売上高 **613**億円(前年同期比+7.1%)、営業利益 **42**億円(同+35.8%)

- 新築向けが戸建・集合とも好調に推移し増収
- 増収に加え、粗利率の改善、経費の抑制により大幅増益

2026年3月期 業績予想 (期初から修正なし)

売上高および各利益とも**過去最高**を予想

売上高 **2,470**億円(前期比+1.5%)、営業利益 **172**億円(同+10.0%)

- リフォーム市場への拡販、生産の合理化・在庫圧縮などによる経費削減

中計最終年度(27/3期)のROE8%へのステップとして**6.7%**目標

株主還元 (期初から修正なし)

今期配当は中間・期末とも50円の年間**100円**(配当性向**52.5%**)と前期比22円の**増配**

- 配当方針は、利益成長に伴う累進配当かつ**配当性向50%**
- 自己株式取得は、今期および来期で約**220億円**を計画(**総還元性向130%**水準)

※株主還元の詳細は2025年5月8日に公表した「[ROE 8%の達成に向けた新株主還元方針と利益成長の取り組み](#)」をご覧ください。

1. 2026年3月期 第1四半期 決算概要 P. 4 ~ 11

2. 2026年3月期 通期業績予想 P. 13 ~ 19

3. Appendix P. 21 ~ 28

売上高は1Qとして過去最高を達成。増収およびオプション品の拡販などによる単価アップに伴う売上総利益の増加に加え、合理化・コストダウンの推進により、各利益とも大幅増益。

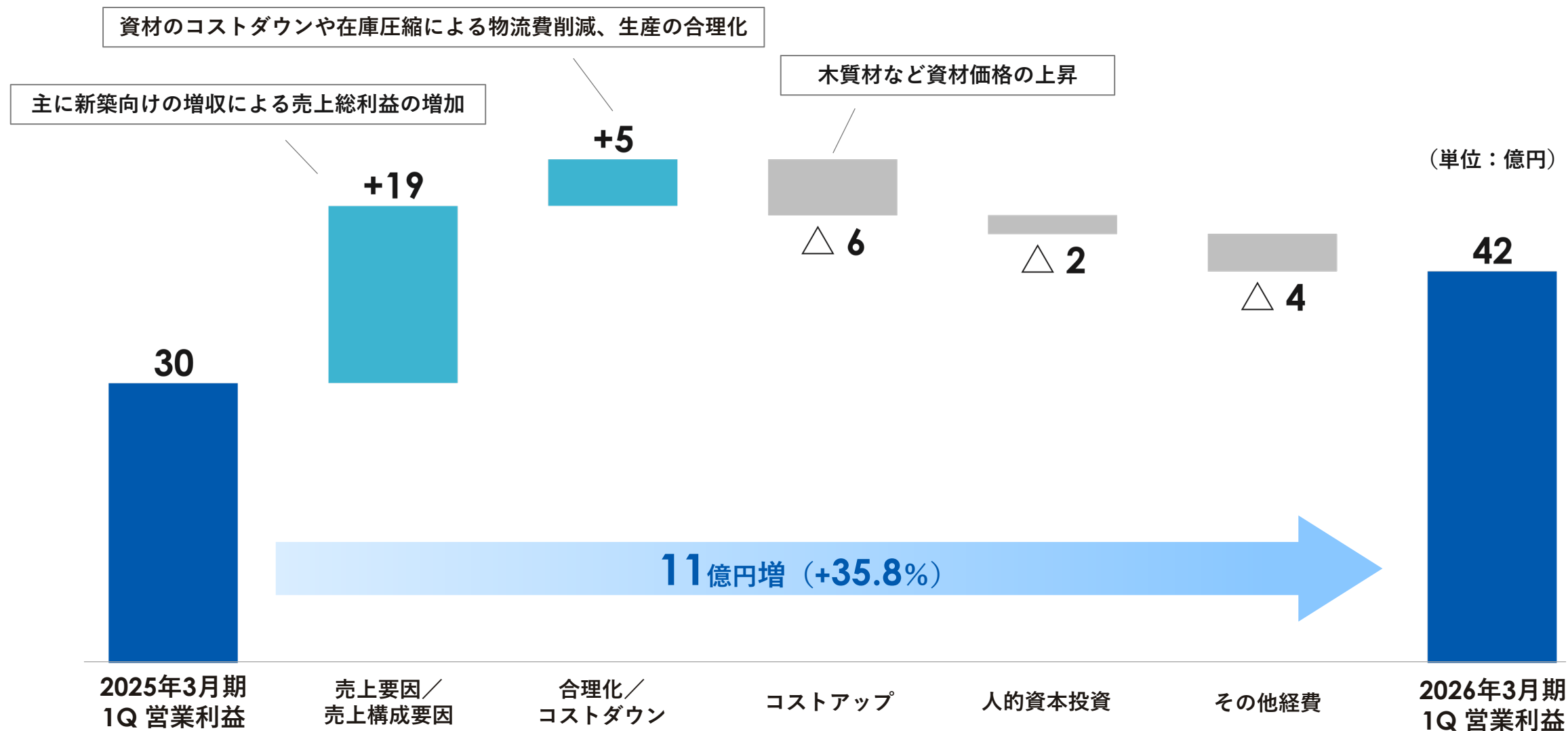
(単位：億円)

	2025年3月期 1Q (4-6月)		2026年3月期 1Q (4-6月)			
	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率
売上高	573	100.0%	613	100.0%	+ 40	+ 7.1%
売上総利益	197	34.5%	214	34.9%	+ 16	+ 8.4%
販売費及び 一般管理費	166	29.1%	172	28.1%	+ 5	+ 3.3%
営業利益	30	5.4%	42	6.9%	+ 11	+ 35.8%
経常利益	32	5.7%	44	7.3%	+ 11	+ 36.3%
純利益※	20	3.6%	30	5.0%	+ 10	+ 48.7%

※本資料における「純利益」は、親会社株主に帰属する当期もしくは四半期純利益を指す

営業利益の増減要因

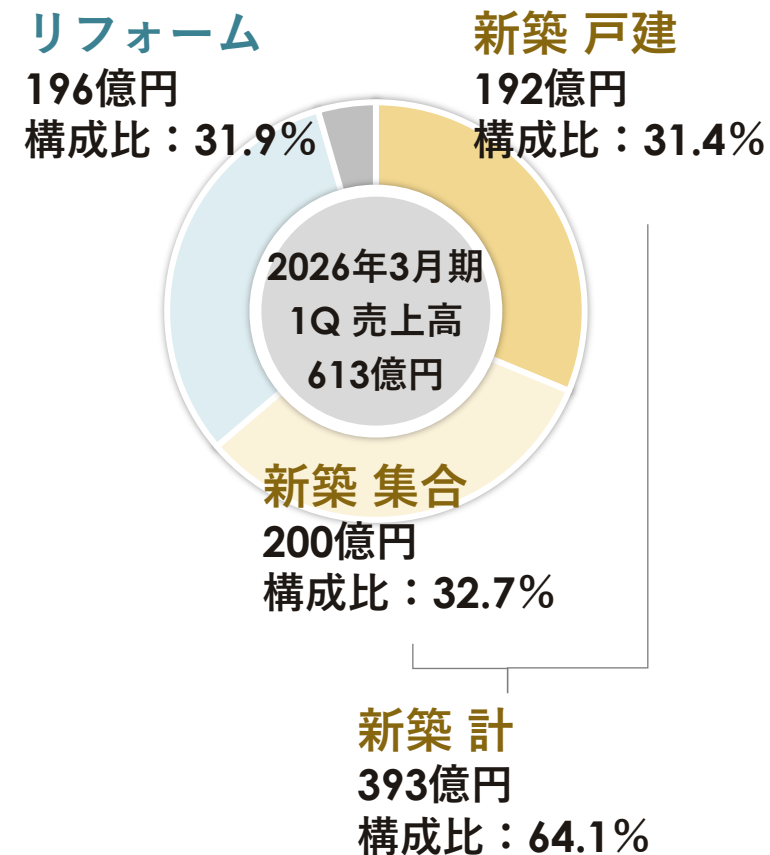
Takara standard



- 新築（戸建） | オプション品などによる単価アップ、2025年4月の建築基準法改正前の駆け込み需要の効果発現
- 新築（集合） | 底堅い首都圏の需要や前年までに実施した価格改定が寄与
- リフォーム | ボリュームゾーン商品の仕様強化やお客様のニーズに寄り添った商品提案により増収

（単位：億円）

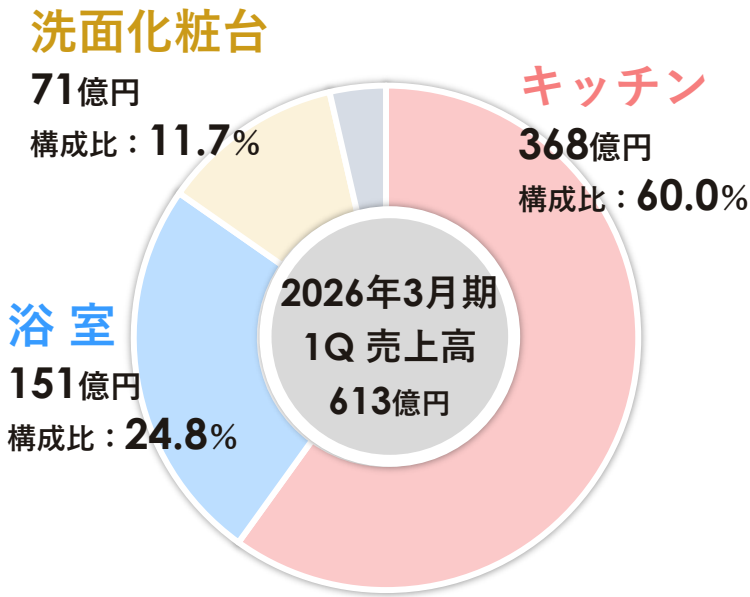
		2025年3月期 1Q (4-6月)		2026年3月期 1Q (4-6月)			
		金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
新築	戸建	171	29.9%	192	31.4%	+ 21	+ 12.6%
	集合	182	31.8%	200	32.7%	+ 18	+ 10.2%
	計	353	61.6%	393	64.1%	+ 40	+ 11.4%
リフォーム		194	33.9%	196	31.9%	+ 1	+ 0.9%
その他共 計		573	100.0%	613	100.0%	+ 40	+ 7.1%



各市場への販売が好調だったため、すべての製品部門において増収。

(単位：億円)

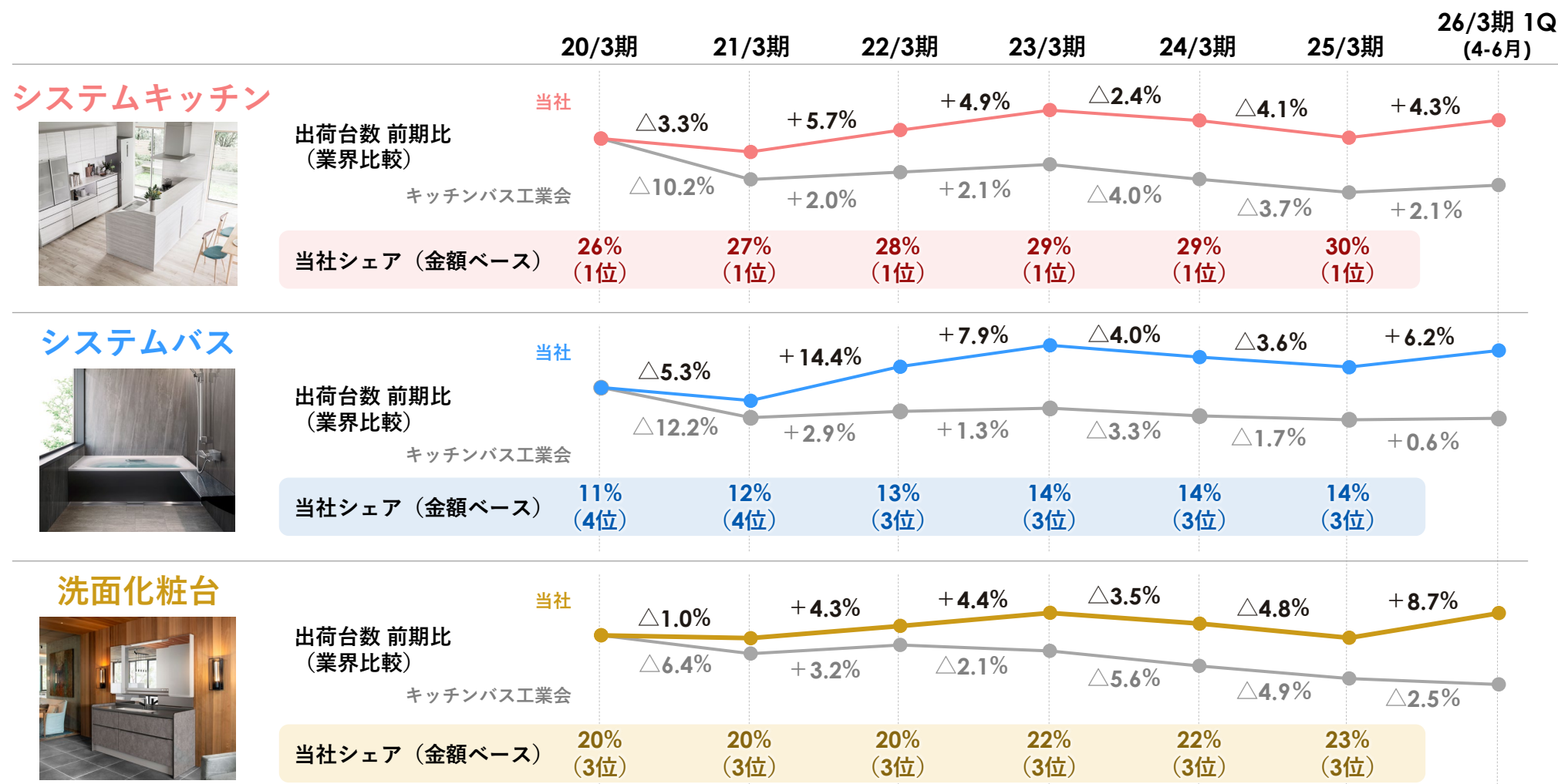
	2025年3月期 1Q (4-6月)		2026年3月期 1Q (4-6月)			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	342	59.7%	368	60.0%	+ 26	+ 7.6%
浴室	142	24.9%	151	24.8%	+ 9	+ 6.5%
洗面化粧台	64	11.3%	71	11.7%	+ 6	+ 10.8%
その他共 計	573	100.0%	613	100.0%	+ 40	+ 7.1%
新規事業関連(内数)						
ガラスフリット	6	1.1%	6	1.1%	+0	+4.0%
内外装パネル	1	0.3%	1	0.3%	△0	△1.4%
海外事業	2	0.5%	2	0.4%	△0	△3.0%



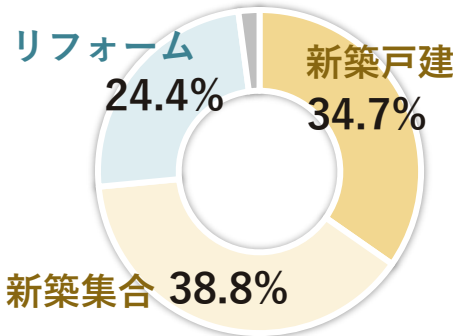
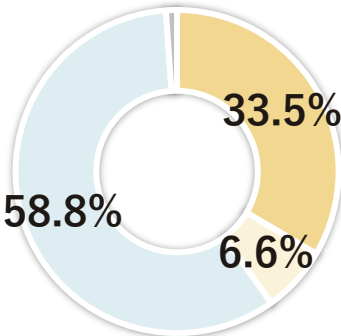
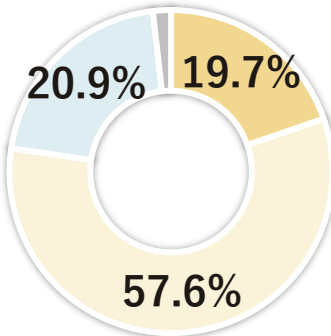
出荷台数前期比 及び 当社シェアの推移

Takara standard

今期1Qにおける出荷台数の前期比は、新築向けの販売が好調に推移したことで業界を上回った。
20年3期基準でも全製品部門で業界を上回り、当社シェアは拡大。



※キッチン・バス工業会は、システムキッチン合計、システムバス合計、洗面化粧台合計の前期比を記載
※業界シェアは当社調べ

売上高（単位：億円）			2026年3月期 1Q (4-6月)		
			キッチン 368	浴室 151	洗面化粧台 71
売上高 構成比					
売上高前 年同期比	新築	戸建	+ 12.4%	+ 15.5%	+ 12.0%
		集合	+ 8.6%	+ 11.7%	+ 15.0%
		計	+ 10.4%	+ 14.8%	+ 14.2%
	リフォーム	+ 1.5%	+ 1.6%	+ 2.9%	

貸借対照表

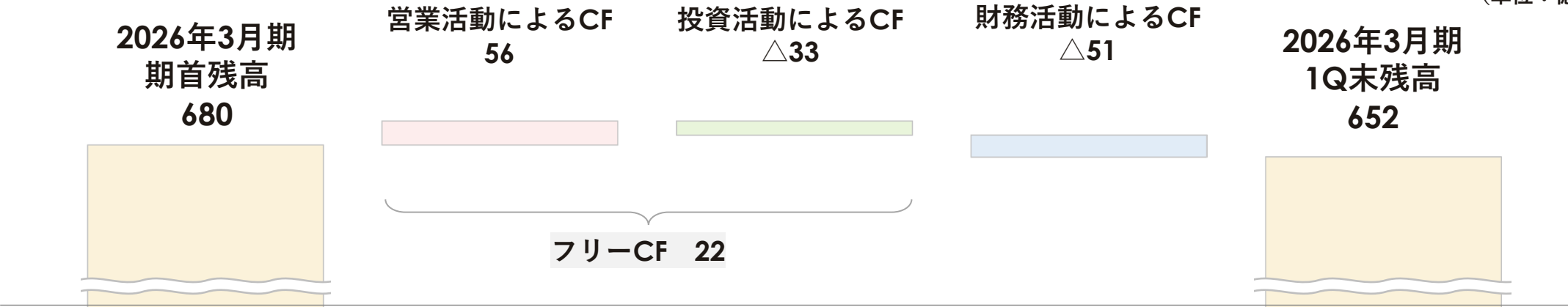
(単位：億円)

		2025年 3月末	2025年 6月末	増減	主な内容	
資産	流動資産	1,603	1,596	△7	現金及び預金 売掛金	△28 +17
	固定資産	1,165	1,189	+23	有形固定資産	+22
資産合計		2,769	2,785	+16		
負債	流動負債	630	665	+34	仕入債務	+13
	固定負債	193	194	+1		
負債合計		824	860	+36		
純資産		1,945	1,925	△19	自己株式の取得	△18
負債純資産合計		2,769	2,785	+16		

キャッシュ・フローの状況

Takara standard

(単位：億円)



	2025年3月期 1Q(4-6月)	2026年3月期 1Q(4-6月)	主な内容
現金及び現金同等物の期首残高	596	680	
営業活動によるキャッシュ・フロー	61	56	税金等調整前四半期純利益 44 減価償却費 19
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24	△33	有形固定資産の取得による支出 △33
フリーキャッシュ・フロー	37	22	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16	△51	配当金の支払額 △29 自己株式の取得による支出 △18
現金及び現金同等物の期末残高	618	652	

1. 2026年3月期 第1四半期 決算概要 P. 4 ~ 11

2. 2026年3月期 通期業績予想 P. 13 ~ 19

3. Appendix P. 21 ~ 28

国内経済

雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加などを背景として、引き続き緩やかな回復基調で推移。一方、物価上昇の継続に加え、米国の通商政策や地政学リスクの高まりもあり、先行きは不透明な状況。原材料価格は、足元では落ち着いてはいるものの、引き続き高止まりしている。

住宅市場

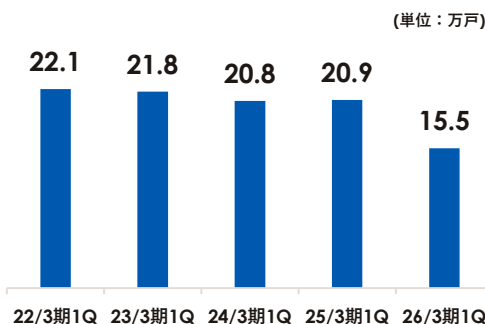
25年4月に施行された建築基準法改正前の駆け込み需要の反動などにより、新設住宅着工戸数は戸建・マンションとも前年から大幅減少。同指数は当社にとって先行指標のため、今後の動向を注視するものの、駆け込み需要と反動により業績への影響はニュートラルと想定。リフォーム需要は底堅く推移する見込み。ただし、資材価格の高止まりや職人不足などによる需要減少や業界内での更なる競争激化は懸念。

為替/関税

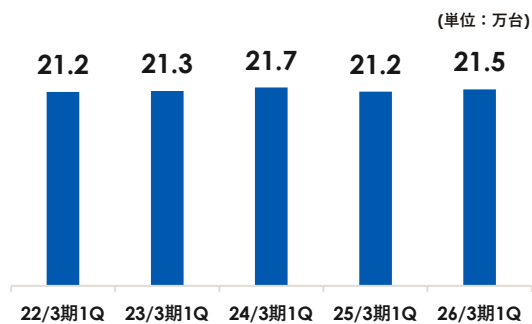
現時点における当社の販売先は国内市場の比重が大きく、かつ仕入先も大半は国内企業となる。従って、為替および関税の変動に対しては間接的な影響を受ける可能性はあるものの、直接的な影響は軽微。

業界の動向

新設住宅着工戸数(国土交通省)

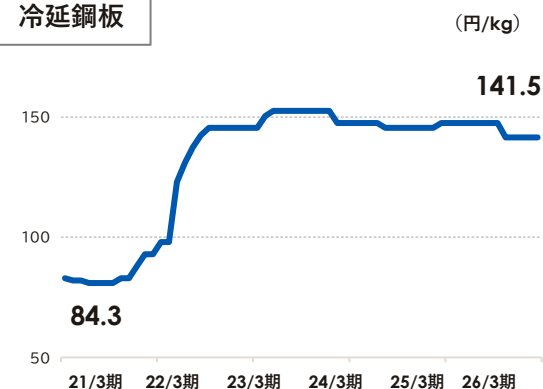


リフォーム市場への
キッチン・浴室の出荷台数
(キッチンバス工業会)

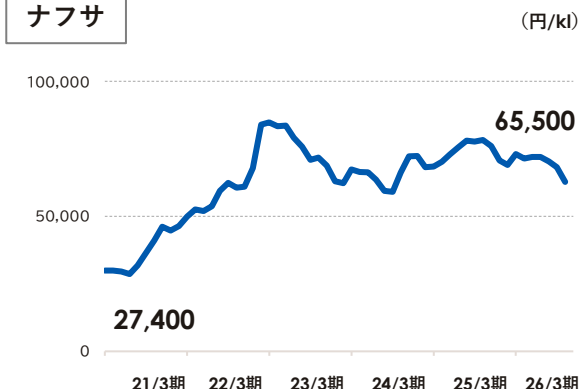


主な資材の市況

冷延鋼板



ナフサ

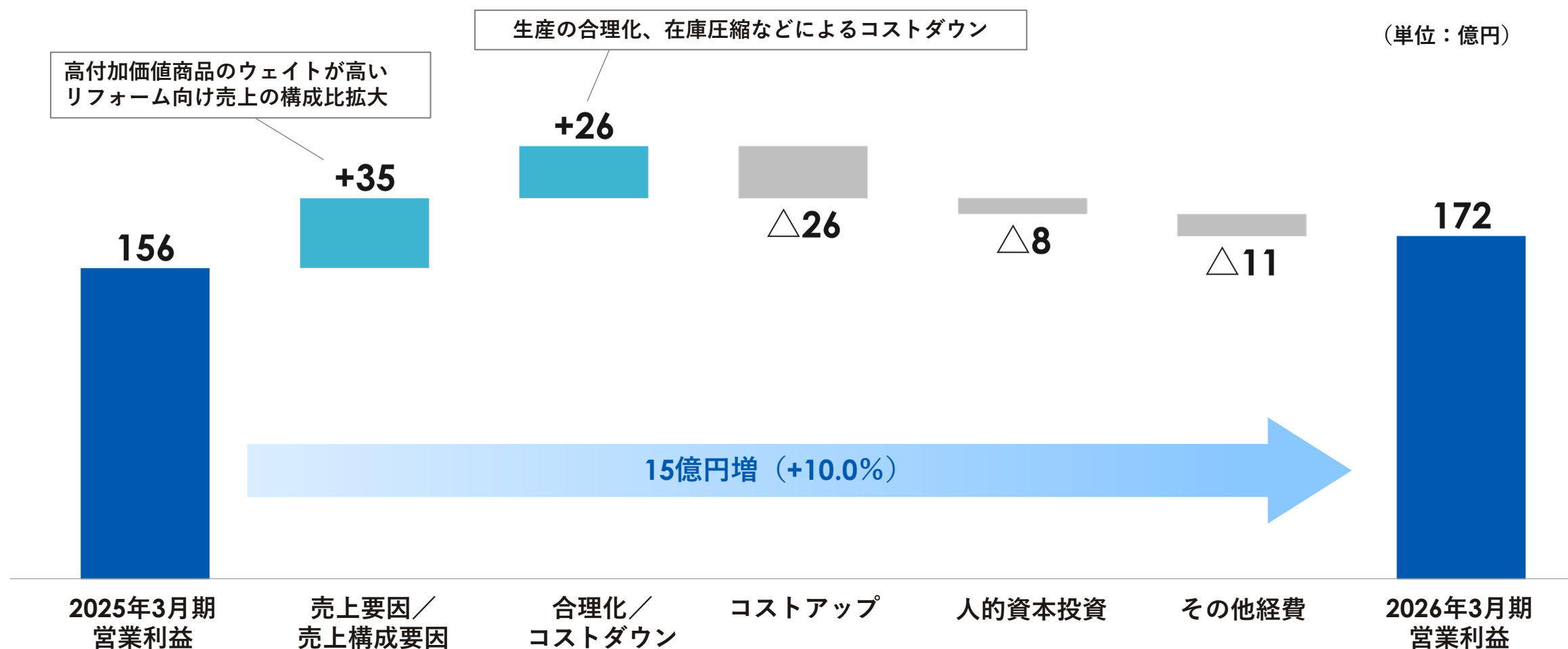


新築市場向けは好調だった前期並みの売上を確保しつつ、リフォーム市場向けでの「商品力の強化」、
「提案力の強化」を更に推進。また、経費の増加はあるものの、合理化を進めることで、増収増益を目指す。
ROE予想は6.7%。業績を向上させつつ、株主還元的大幅拡充により純資産の圧縮を進める。

(単位：億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減	
			金額	増減率
売上高	2,433	2,470	+ 36	+ 1.5%
営業利益	156	172	+ 15	+ 10.0%
営業利益率	6.4%	7.0%	+ 0.5P	—
経常利益	160	175	+ 14	+ 9.3%
純利益	110	128	+ 17	+ 15.4%
ROE	5.8%	6.7%	+0.9P	

足元で回復基調のリフォーム向けの売上増加、新築向けの利益率向上、中期経営計画の基本戦略の推進による収益力向上(費用削減)によって利益は増加。



2026年3月期の設備投資は123億円を計画

生産性の向上及び更なる成長を目的に、生産関連投資で76億円、その他ＩＴ関連投資などを含め、積極的な投資を計画。

(単位：億円)

	2026年3月期 計画
設備投資額	123
減価償却費	78



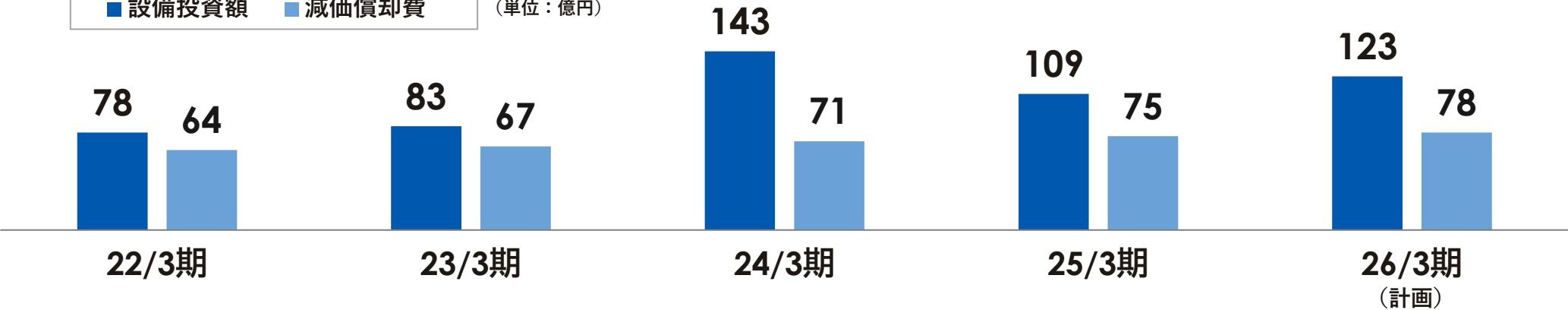
(主な内訳)

(単位：億円)

項目	金額	主な内容
生産関連	76	自動化・省人化による生産効率化投資、生産設備の増設などの増産対応、他
システム関連	17	ＩＴ関連投資（DX化の推進、他）
建物事務関連	16	オフィス環境整備、建物維持管理、他

■ 設備投資額 ■ 減価償却費

(単位：億円)

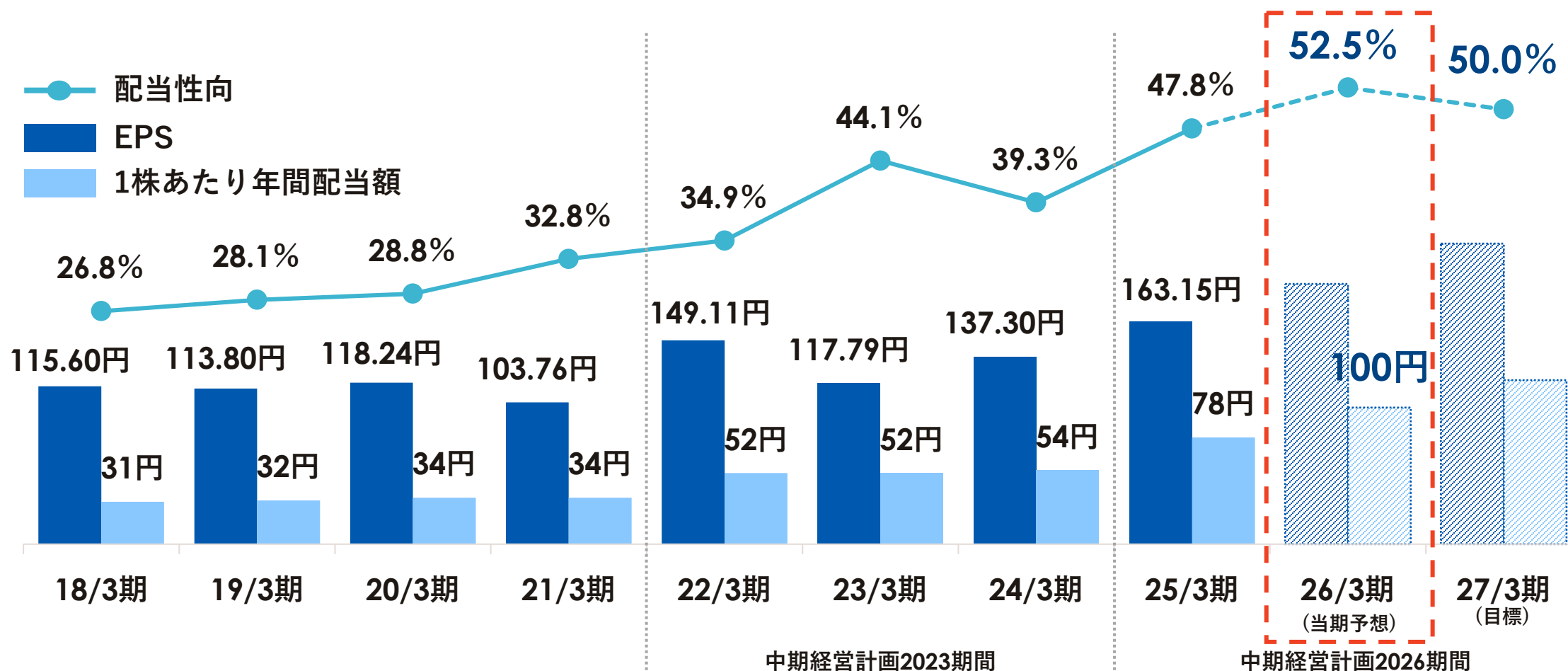


2027年3月期のROE8%の実現に向けて、株主還元方針をより積極的な内容に改定する。

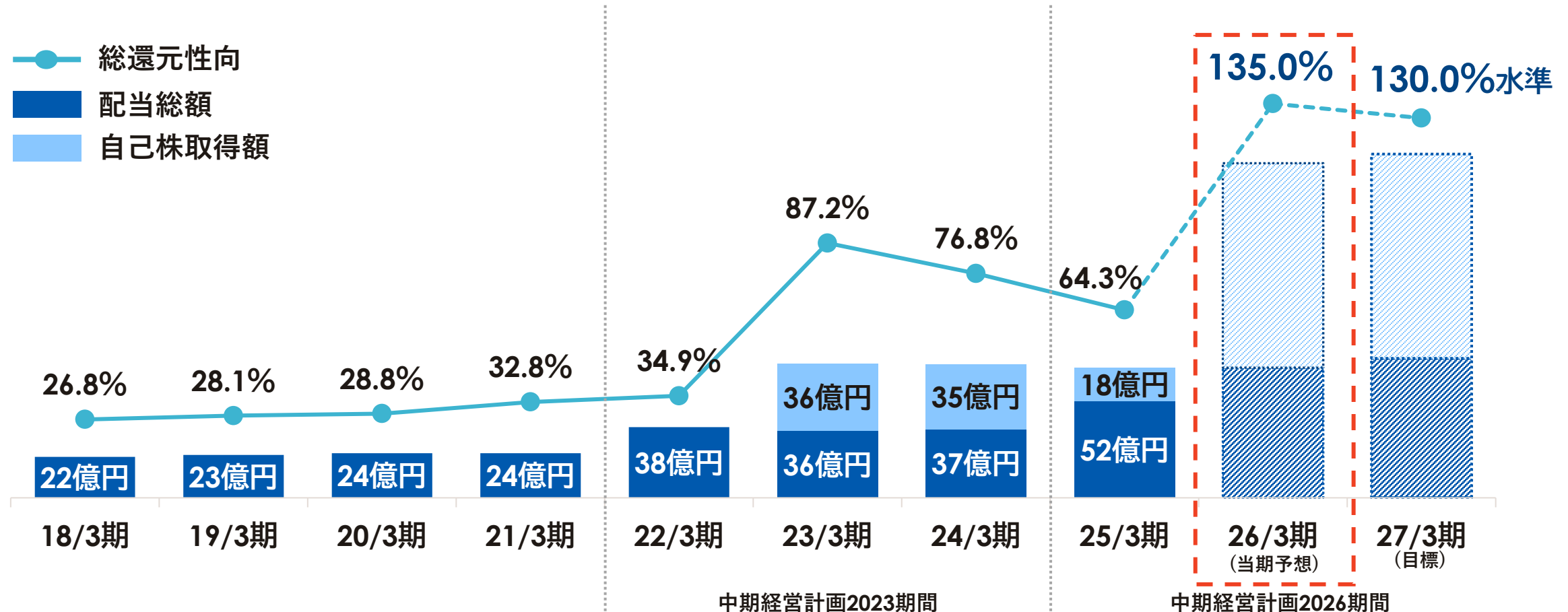
株主還元方針		新株主還元方針
株主還元方針	配当金	配当性向50% (現中計期間3年総額 約200億円) 利益成長に伴う累進配当
	自己株式取得	26/3期～27/3期 約220億円の取得 (現中計期間3年総額 約240億円)
株主還元の考え方		持続可能な成長基盤の構築に向けて、成長投資や経営基盤強化等に資本を積極的に配分するとともに、財務の健全性を維持しながら、株主還元の充実を図る 現中計期間においてROE8%実現に向けて、配当に加え自己株式の取得による株主還元も積極的に活用する

中計2026終了(2027年3月期)以降については、その時点での財務状況や投資案件によるものの、
2031年3月期の**KPI(ROE10%)**や**株価向上**を強く意識して決定

- ・ 26/3期の1株あたり配当額は、前期から22円増配の年間100円(中間配当50円)。
- ・ 当社では従前から安定配当を基本に、記念配当を除き現在まで33期連続で減配なし。
- ・ EPS成長を続けながら、直接的な株主還元も強く意識していく。



- ・ 前中期経営計画期間から自己株取得を推進し、総還元性向は高水準で推移
- ・ 目標ROE8%の達成、更には早期のPBR1倍クリアに向け、更に加速
- ・ 26/3期および27/3期は、純資産の縮減に向け、自己株式約220億円を取得し、総還元性向は130%水準
- ・ 今期の自社株買いは約110億円を予定し、1Qでは18億円を取得



1. 2026年3月期 第1四半期 決算概要 P. 4 ~ 11

2. 2027年3月期 通期業績予想 P. 13 ~ 19

3. Appendix P. 21 ~ 28

大阪・関西万博にホーロー壁装材「エマウォール」を提供



©三井嶺建築設計事務所



©斎藤信吾建築設計事務所+AteliersMumuTashiro

- ・ 当社は4/13に開幕した大阪・関西万博にサプライヤーとして協賛
- ・ ポップアップステージ(西)、トイレ2、トイレ8にホーロー壁装材「エマウォール」を提供

https://www.takara-standard.co.jp/files/news/press_release/RELEASE_20250418.pdf

子ども向け社会体験アプリ「ごっこランド」に協賛



- ・ 6/24、(株)キッズスターが提供する「ごっこランド」に「なやみ かいけつ! ホーローキッチン」の配信がスタート
- ・ 同アプリは実在企業の仕事の“ごっこ遊び”をしながら社会の仕組みを学べる
- ・ 子どもたちに当社のホーローを身近に感じてもらうため出店を決定

https://www.takara-standard.co.jp/files/news/press_release/RELEASE_20250624.pdf

経産省が定める「DX認定事業者」に選定



- ・ 当社は中計の重要戦略の一つにDX戦略を掲げ、独自の取り組みを「TDX(Takara standard Digital Transformation)」として推進
- ・ TDXでは、人的生産性の向上、在庫・物流費削減、営業基盤再構築の3つを主要領域にスマート発注システムなどを進める
- ・ これらの取り組みが評価され、今回の認定に至った

https://www.takara-standard.co.jp/files/news/press_release/RELEASE_20250422.pdf

グローバル市場向けコミュニケーションタグラインを設定

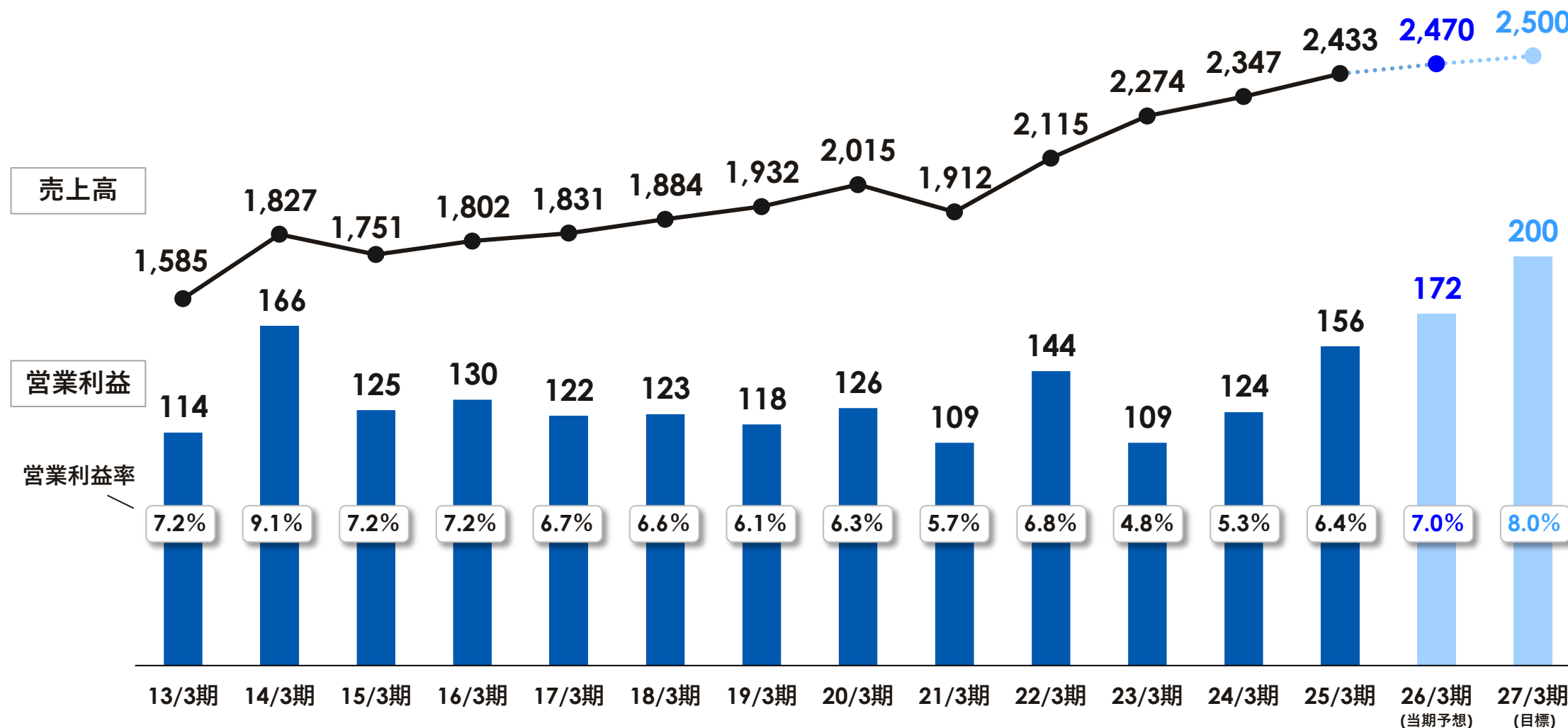


- ・ ホーロー素材を活かした唯一無二の住宅設備機器メーカーであることをアピールするため、「Takara HORO」をブランド名として打ち出し
- ・ 加えて、今回コミュニケーションタグラインとして「HORO YOUR LIFE」を設定
- ・ 当社のホーロー製品が世界中の人々の生活を豊かで快適にすることを訴求

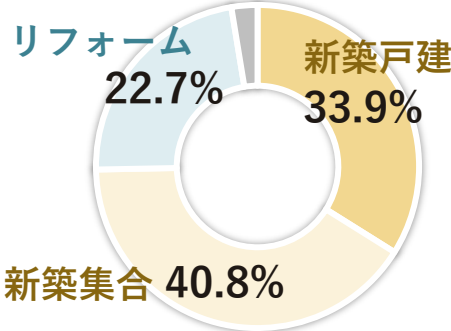
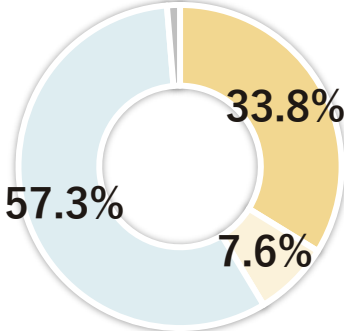
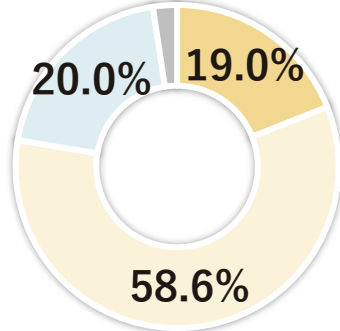
https://www.takara-standard.co.jp/files/news/press_release/RELEASE_20250421.pdf

売上高 及び 営業利益の推移

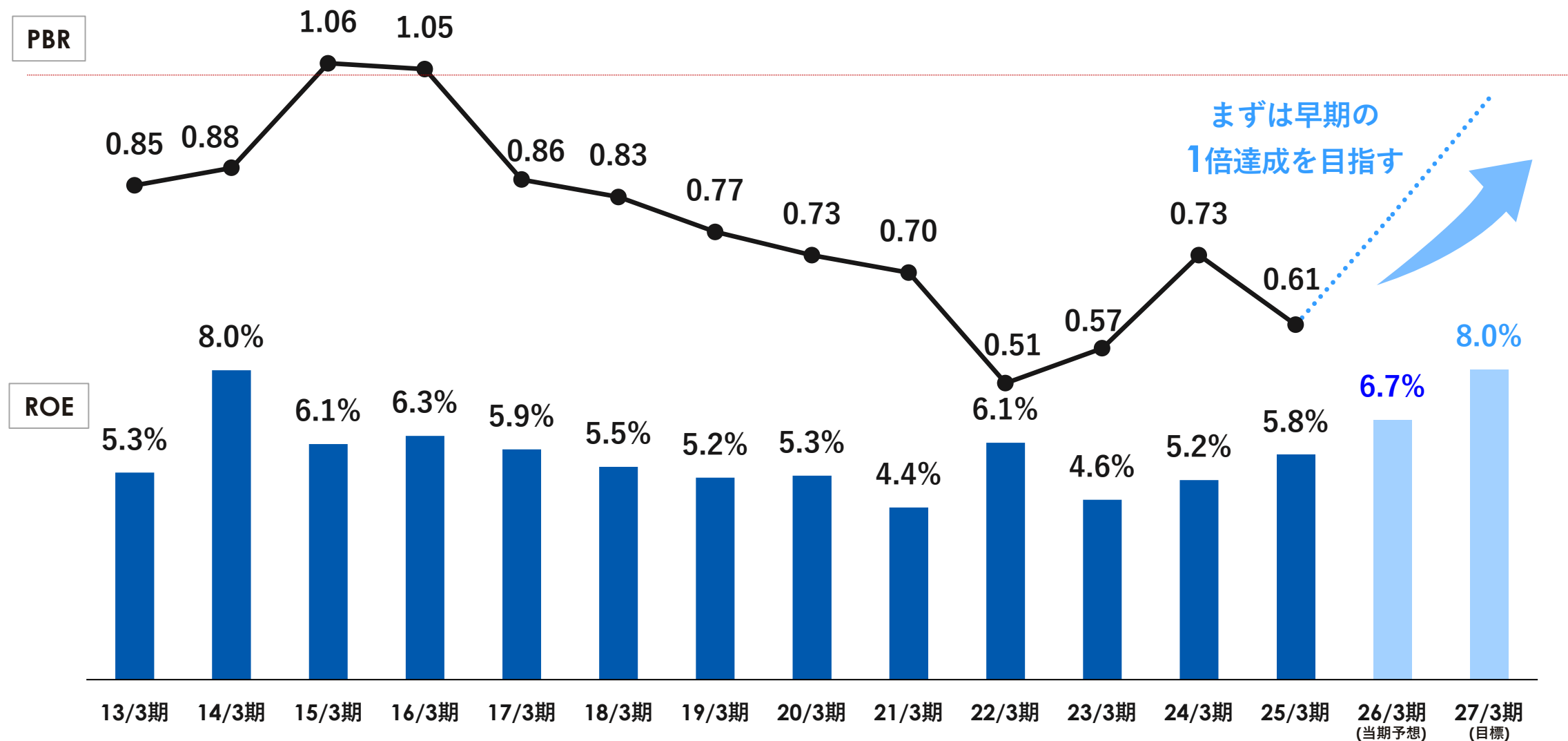
(単位：億円)



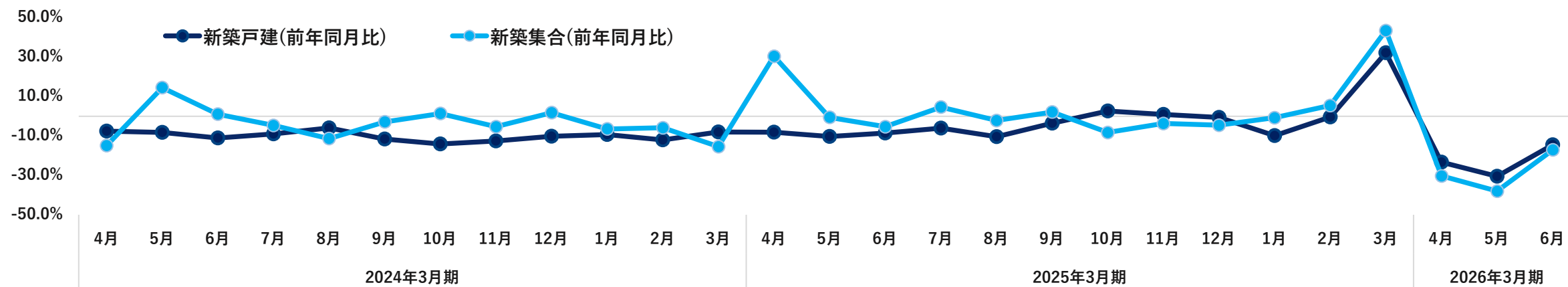
※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、2021年3月期は遡って適用した数値となっておりますが、2020年3月期以前の各数値は遡及適用しておりません。

			2025年3月期		
			キッチン 1,490	浴室 557	洗面化粧台 286
売上高（単位：億円）					
売上高 構成比					
売上高 前期比	新築	戸建	+ 8.1%	+ 7.9%	+ 0.2%
		集合	+ 10.4%	+ 19.6%	+ 10.5%
		計	+ 18.5%	+ 27.5%	+ 10.7%
	リフォーム	△ 5.1%	△ 3.4%	△ 2.5%	

ROE 及び PBRの推移

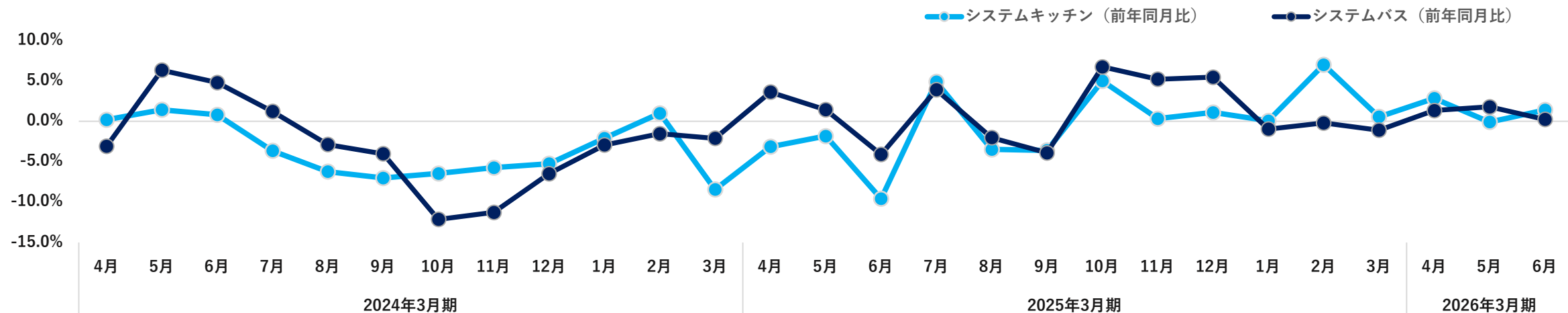


● 新築戸建・集合 関連データ (国内における新築着工数の前年比)



※国土交通省「建築着工統計調査」を一部編集

● リフォーム 関連データ (住設業界におけるリフォーム向け出荷台数の前年比)

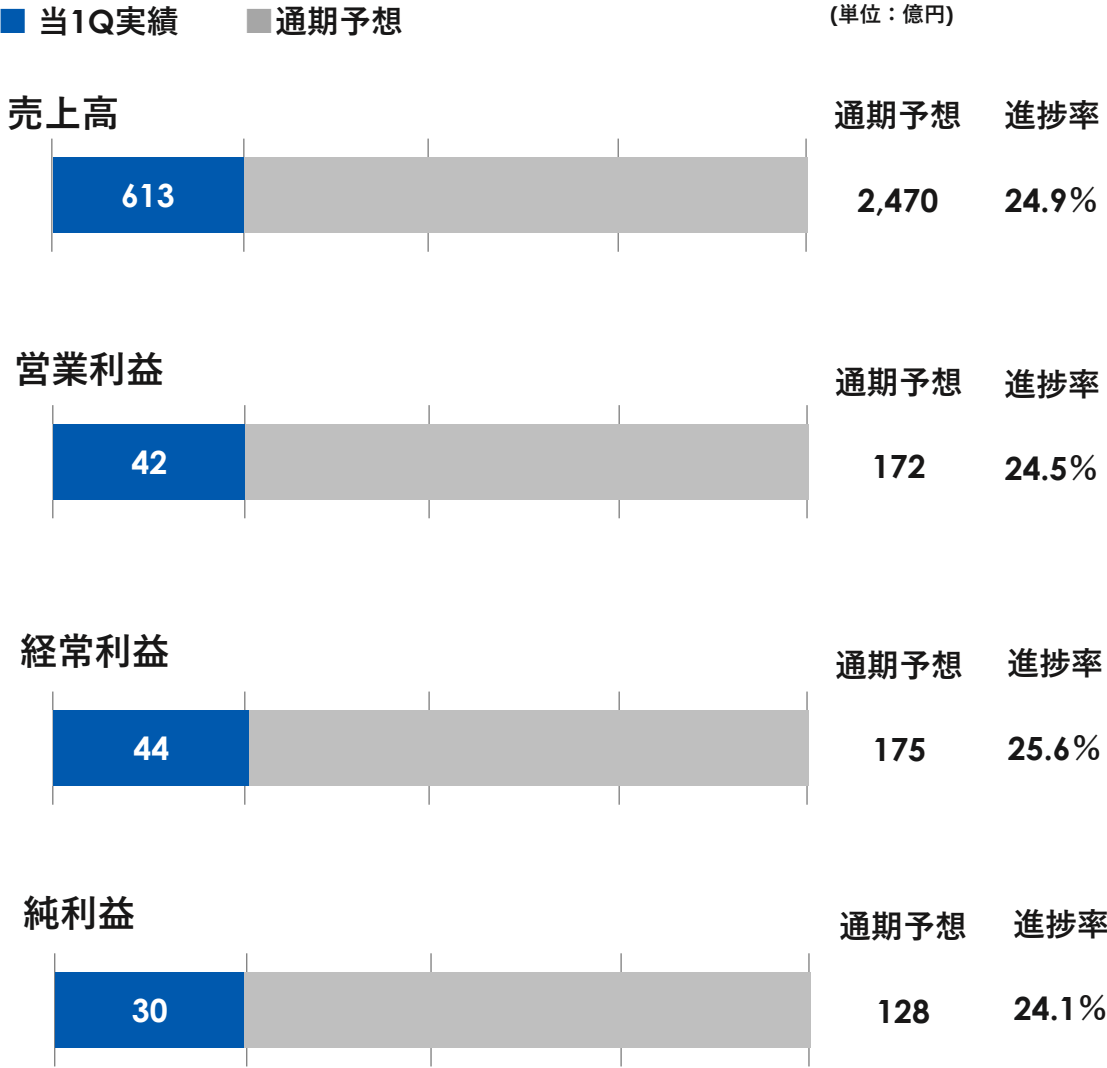


※キッチン・バス工業会の統計資料を一部編集

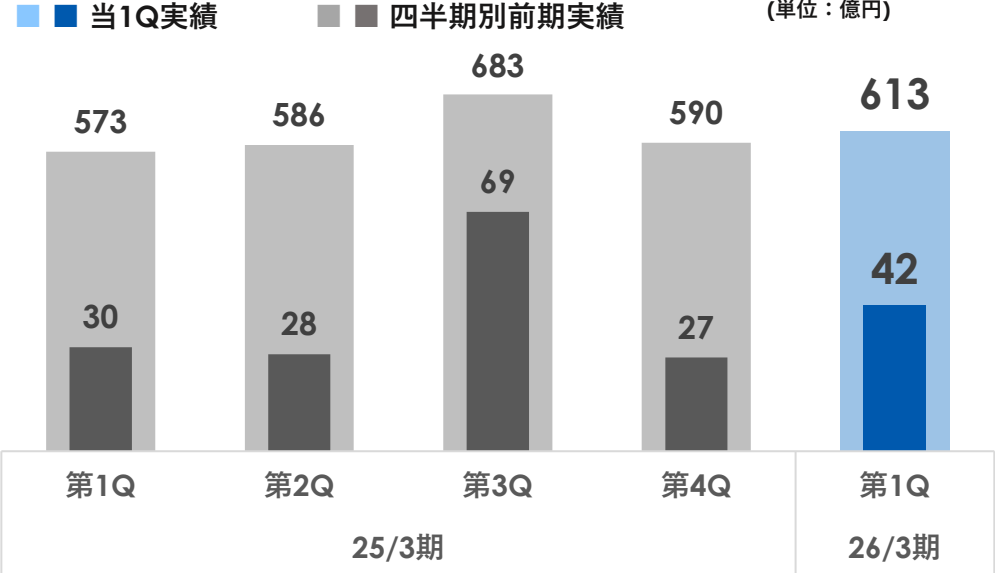
(単位：億円)

	2026年3月期													
	上期予想					下期予想					通期予想			
	金額	売上比	前期増減	前期比	構成比	金額	売上比	前期増減	前期比	構成比	金額	売上比	前期増減	前期比
売上高	1,185	100.0%	+ 25	+ 2.2%	48.0%	1,285	100.0%	+ 10	+ 0.8%	52.0%	2,470	100.0%	+ 36	+ 1.5%
営業利益	74	6.2%	+ 14	+ 24.2%	43.0%	98	7.6%	+ 1	+ 1.3%	57.0%	172	7.0%	+ 15	+ 10.0%
経常利益	76	6.4%	+ 14	+ 23.8%	43.4%	99	7.7%	+ 0	+ 0.3%	56.6%	175	7.1%	+ 14	+ 9.3%
当期純利益	55	4.6%	+ 16	+ 41.6%	43.0%	73	5.7%	+ 0	+ 1.3%	57.0%	128	5.2%	+ 17	+ 15.4%
ROE											6.7%		+0.9p	

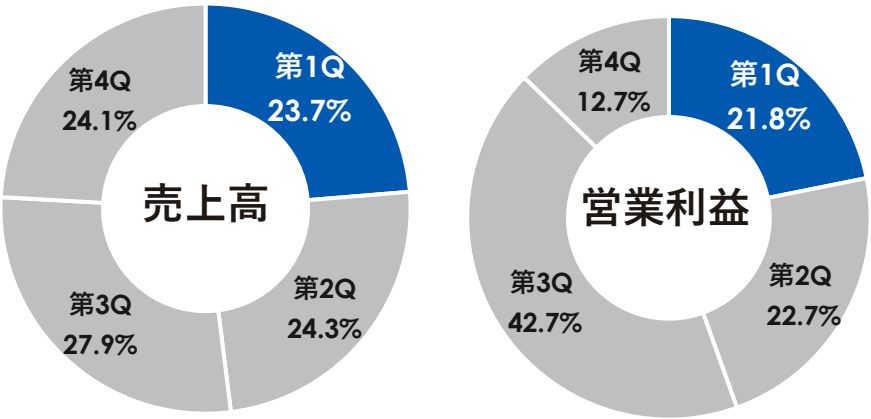
予想進捗率



売上高・営業利益の四半期別推移



(参考) 四半期別業績構成比 (過去5年平均)



< IRお問い合わせ先 >

タカラスタンダード株式会社
管理本部 IR部

TEL

06-6180-6677

E-mail

ir@takara-standard.co.jp

水まわりって、大切だから

Takara standard

本資料は、公表時点の計画に基づく予測が含まれています。

これらの計画と予測は、リスクや不確定要因を含んだものであり、実際の業績が当社の計画と異なる結果となる可能性があります。